

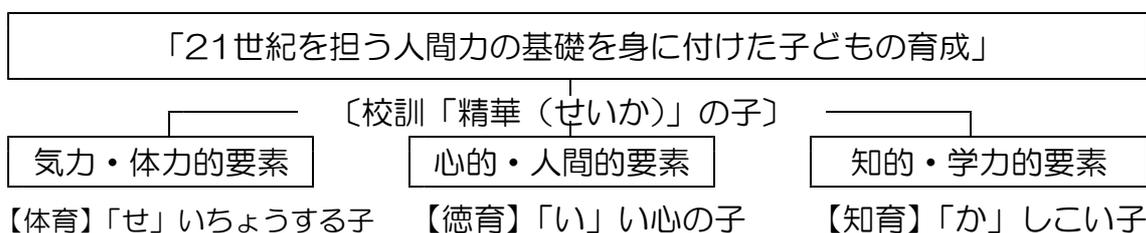
校名：福岡教育大学附属久留米小学校

所在地：〒830-0051 福岡県久留米市南一丁目3番1号 電話番号：(0942)32-4401

記載日：平成28年5月19日 記載者：高橋泰朗 記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

1 めざす子ども像



2 めざす教師像

- ① 使命感に燃え、意欲と情熱をもち、研修に励む教師 <向上心をもった教師>
- ② 慈愛に溢れ、子どもと協働し、実践する教師 <人間性豊かな教師>
- ③ 児童・保護者・地域とともにあゆみ、任される教師 <信頼される教師>

3 経営方針

効果的な学校運営（効率性と効果）	創造的な教育研究（先進性と本質性）
(1) 附属学校としての教育活動 ① 日常授業や行事・集会等の充実 ② 実践力を育む教育実習生への指導 (2) 運営組織の連携と効率化 ① 効果的に働く学年経営、教科経営 ② 組織の効率的な機動と組織間連携	(1) 先進的な教育研究 ① 学習指導要領改訂期の先進的研究 ② 大学との連携による教育研究 (2) 本質を踏まえた授業 ① 教科等の本質や原点の確認 ② 地域への質の高い授業の発信

4 本校経営の特色

- ① 本学「附属学校運営に関する基本方針(平成23年8月)」を踏まえた経営
- ② 国及び地域教育振興の拠点となるモデル校「附属クオリティ」を目指す経営
 - 地域の教育センターとしての役割を持ち、貢献を果たす研修の推進
 - 研究成果を発信する研究発表会、地域の教育課題に対応する公開研究会の開催
 - 県及び市町村教育行政、教育研究機関、教科等研究団体と連携した研修会の開催
 - 県派遣長期研修員への教育実践研修機会提供と教科等主題研究の指導及び支援
 - 本校への視察研修の受入、出張講師として研究団体や公立校研修会への参加
 - 大学の事業や大学教員との連携した教育理論と実践研究の推進

③ 国及び地域教育をリードする人材の育成を図る経営

- 教科等専門性と実践力量の向上を図る準教科担任制の導入と実践研究推進による育成
- 研修の年次計画と研修部による育成指導体制、研修機会の効果的な配置による育成

④ 勤務・研修時間等の合理化と工夫、安全管理の徹底と安心して学べる環境の整備

貴校の卒業生の活躍状況について：追跡調査は実施していない。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

本校に勤務した教員のOB会である「精華会」を組織し、名簿を作成している。その名簿をもとに、毎年4月1日に役職や勤務先及び昇任者を調査し、把握している。本校でその情報を保管し、「精華会」総会で報告と確認を行う。近年の具体的状況は以下の通りである。

【平成26年度昇任等】

- 県教育庁
 - ・体スポーツ健課 参事 1
- 県教育庁教育事務所
 - ・副所長 1
 - ・主幹指導主事 1
 - ・人事管理主事 1
 - ・指導主事 2
- 県教育センター
 - ・副所長 1
 - ・主任指導主事 1
- 市町村教育委員会
 - ・教育長 1
 - ・参事 1
 - ・指導主事 4
- 市町村教育センター
 - ・指導主任 1
 - ・指導主事 1

【平成27年度昇任等】

- 県教育庁
 - ・体スポーツ健課 指導主事 1
- 県教育庁教育事務所
 - ・副所長 1
 - ・主幹指導主事 2
 - ・人事管理主事 1
 - ・主任指導主事 1
 - ・指導主事 4
- 県教育センター
 - ・主任指導主事 1
- 市町村教育委員会
 - ・教育長 1
 - ・首席指導官 1
 - ・指導主事 2
- 市町村教育センター
 - ・所長 1

【平成28年度昇任等】

- 県教育庁
 - ・義務教育課 指導主事 1
- 県教育庁教育事務所
 - ・副所長 1
 - ・主幹指導主事 2
 - ・人事管理主事 1
 - ・主任指導主事 1
 - ・指導主事 4
 - ・社会教育主事 1
- 県教育センター
 - ・指導主事 2
- 市町村教育委員会
 - ・指導主事 1
- 市町村教育センター
 - ・指導主事 1

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

1 先進性のある実践研究を推進

- (1) 平成24～27年度文部科学省研究開発学校「情報教育 ～情報科の新設～」
(平成25・26年度 パナソニック教育財団特別研究指定校 ICT教育)

① 「情報科」の教育内容及び指導方法を開発するとともに、多様な情報を効果的に活用するために必要な資質・能力である「情報編集力」を育成している。

○「情報科」の教育内容の開発と指導要領解説書の作成

- ・A領域…情報の見方や考え方、B領域…情報機器の操作、C領域…情報モラル

○6年間のカリキュラムや評価テストの作成と実践及び改善

○先導的なICT活用の研究…実物投影機、タブレット、電子黒板、無線LAN等

○現行の教科等と「情報科」との関連を図った「情報編集力」を働かせる活動の究明

② 本研究の成果をまとめ、広く世に問うために、著書を発刊する。

○『「情報編集力」を育てる問題解決的な授業づくり～「どのように学ぶか」を追究する3つの活動～』（平成28年2月刊行）

※なお、①②については、本学教授と構成する研究推進委員会の活用、本学による機器や施設の適切な整備、文科省調査官及び他大学からの講師の効果的な指導により推進を果たしている。

※本校では、研究紀要とは別に、およそ3年に1度のサイクルで著書を発刊している。今回の著書で18冊目となった。



(2) 平成28年度～ 文部科学省 教育課程特例校「外国語科」「情報科」

○学習指導要領の改訂期に、特例校として先行実施を図り、授業方法の開発を行う。

2 地域の教育課題解決を推進

(1) 研究発表会

① 学校の情報化に対応する実践を提案

平成27年度 「21世紀を生き抜く子どもを育てる教育の創造」

～情報編集力を働かせる子ども・主体的に学びを生み出す子ども～

○「情報科」の授業及び目指す資質能力（「情報編集力」）を身に付ける実践研究、情報機器を活用した授業

② 論点整理を踏まえこれからの教育に対応する実践を提案

平成28年度 「主体的に学ぶ子どもの育成（仮）」

○教科等の本質からみた資質能力の育成、教科等横断的な資質能力の育成を図る授業

※研究発表会 平成29年2月23日（木）・24日（金）開催予定

(2) 公開研究会

① 若年教員を対象にした実践提案

平成27年度「学力が向上する授業づくりの基礎・基本」

○基本的な授業づくりの方法…教科等の本質の明確化、授業構成の5要素構成

② 現代の教育課題を見据えた実践提案

平成28年度「学力が向上する授業」「研究テーマを実証する授業」

○教科等の本質（目標・内容）を的確に捉え目指す資質・能力を身に付けさせる指導

○教科等の本質を踏まえた研究テーマを実証する授業づくりの方法

・地域の教科等研究会と連携して実施…教科等研究会会員の参加

(3) 本校教員が講師となる県教委主催研修会、教科等研究会主催研究会、公立校内研究会

① 学級担任を対象にした研修会（悉皆研修の一部を担う）における授業提案

○学力向上推進事業「教育実践力強化講座（国語・算数）」（平成27年度1回開催）

② 若年教諭を対象にした研修会における授業提案

○「アクティブ・ラーニング実践講座（国語・算数・理科）」（平成28年度2回開催）

③ 臨時的任用教員を対象にした研修会における講話

○「臨時的任用教員教育実践研修会（全教科等）」（平成27・28年度）

④ 教科等研究団体の実践研究や公立校の校内研究の指導助言

○教科等研究会、校内研究会への指導助言（教科等によるが年間数名）

（年間回数 平成26年度のべ87回 平成27年度のべ48回）

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

1 教育センターとしての役割を果たす存在、

○現代の教育課題の解決、先進的な研究開発に挑み、成果を発信する役割を果たす

- ・公立校では取り組みにくい開発研究に挑み、地域の学校に模範を示す立場で、本校主催の研究会（研究発表会、公開研究会）を開催している。
- ・各教科等それぞれに専門とする教員が揃っており、本学教授等との連携推進、精華会（OB会）先輩教員との連携推進によって、実践研究を深めることができる。

2 地域の教育振興に貢献する存在

○地域に密着して地域の教育課題解決に資することを目的として活動し役割を果たす

- ・県教育委員会が主催する研修会において、模範的な授業を公開して研究協議を行う。また、全教科等に渡って授業づくりの基礎・基本を講義をする。
- ・公立学校、市町村教育研究所、教科等研究会等から要請を受けて、毎年約50～80回程度、本校教員が講師として出向いている。
- ・外部から本校への視察研修を受け入れ、研修会を企画し、研修機会を提供している。

3 教員の人材育成を担う存在

○県及び市町村教育委員会との連携による人材養成の中核となる役割を果たす

- ・本校に勤務する教員は、附属校勤務者としての使命を果たしながら、研修及び研究実践を積み上げて、県や地域の教育をリードする人材として力量を高め、県教委や市町村教委等教育行政機関等で活躍するようになる。
- ・長年に渡り県教育委員会からの長期派遣研修を受け入れている。公立校教諭（4名）に研修機会（中心教科を主とする教科担任として、及び学級担任外業務担当として配置）を設けて研修員として勤務してもらい、授業方法、学校運営組織体制、教室環境等、理論研究や実践研究に対する指導・支援を行って育成している。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

附属学校の存在意義は附属の使命と言われる次の4つを充実できることである。

- 1 義務教育（普通教育）を行う学校として、保護者の協力が得られやすく教育指導を充実させ子どもの姿を高めることが可能となる。家庭教育と学校教育の連携が理想的にできる。
- 2 教育実習を行う学校として、教育実習生を指導する本校教員の組織的な指導体制と指導の仕組みが長年に渡って実施され成果を上げてきた。現場で即働ける力を育成してきた。
- 3 教育の実践的研究を行う学校として、研究組織の効果的な実働と緻密な推進計画が毎年実行されて成果を上げるとともに、大学教授等との連携強化によりさらに充実できる。
- 4 地域の教育のモデルとして広く初等教育に寄与しようとする学校として、研究発表会や公開研究会といった行事は地域から着目され、公立校の経営や授業改善に取り入れられる。附属学校という教育機関が県教委の人材育成サイクルに組み入れられて有効に働いている。